



平田 藤義（ひらた・ふじよし）

1945年2月3日生 鹿児島県与論町出身

1967年～1972年、KURASHIKI ブラジル： 電気・水・ボイラ担当主任

1973年～1997年、ROHM Indústria Eletrônica Ltda. (略称 ROHM I.E.L：ローム電子工業/ブラジル日本商工会議所登録通称名はROHM (ローム))：生産管理課長/製造部長/工場長/副社長/社長 (1996 年～)

1997年6月30日、生産活動から全面撤退し全従業員を解雇後に退任。

2002年6月3日～ ブラジル日本商工会議所の事務局長として現在に至る。

～ 会議所活動歴（サイト抜粋） ～

日伯ハイレベル協議・意見交換への参加：

日伯経済合同委員会（日本経団連/伯工業連合会）、日伯貿易投資促進・産業協力合同委員会（日伯貿投委）、日伯農業対話、日伯インフラ協力会合

伯連邦（省庁）・州政府および公社への具体的提言：

公聴会【(2006/5：T/P、日伯EPA、地デジ) 2017/8（労働法、税制)】、外国投資家グループと共に T/P 改善陳情書送付および法案改正要請、米国会議所および FIESP と T/P 改善の合同政策提言、日伯社会保障協定（年金二重払防止措置）、マナウス・フリーゾーン進出企業要請の PIS/Cofins 低減、商用マルチビザ 3 年有効期限、日伯貿投委で AGIR 等各種提言、サンパウロ投資局 (InvestSp) および開発商工省 (MDIC) にブラジル経済特区の改善強化策、州政府へのビジネス環境改善提言【RS（ICMS 改善）、パラナ（2017/8 公聴会提出の労働法・税制）、SP（投資誘致策）、マットグロッソ（投資誘致には連邦/州政府の税制見直要）】、EMBRAPA（伯農牧畜調査研究公社）と連携共同発表、ABDI（産業開発庁）と連携強化

日伯経済団体および外国会議所間交流：

日本経団連との各種連携活動（定例合同委員会、EPA アンケート）、ブラジル工業連合会との連携活動（AGIR 提言、各種会議・セミナー等々）に参加、FIESP/会議所連携活動（日・伯/日・メルコ EPA 推進活動、日伯周年記念行事開催、SP 州企業の経済ミッション派遣協力）、アメリカ/ドイツ商工会議所と交流イベント

学界との連携：

FAAP 大学・明治大学との学生交流促進仲介、筑波大学と会議所間の覚書交換、明治大学と会議所間の覚書交換

官民連携活動（在伯日本大使館、各地の総領事館との連携）：

ブラジル日本移民 100 周年記念経済シンポジウムおよび日伯外交関係 120 周年記念（日経新聞

社・エスカード紙・会議所共催）シンポジュームの開催、官民合同会議出席および民を代表した提言（一般旅券のフリー化等々）

新規会員勧誘活動業務：

日本からの進出企業訪問対応、日本におけるブラジル経済セミナーでの講演、日本の潜在的進出企業訪問、日本の県庁（三重県）および市役所（大阪）との連携促進

会議所内部業務：

会議所基本方針や委員会役割の立案作成、定例常任理事会・理事会・総会に諮る動議事項および事業報告並びに年度予算立案作成、監事会に対する財務報告および業務報告、内部規定の立案作成、定款・選挙規則・選挙要領規定改定の立案作成、会員企業への相談窓口業務、会議所主催の各種イベント開催、内外の表敬訪問客対応、内外のマスコミ対応、内外から昼食会講師招聘、ブラジル日本青年会議所支援、日系主要団体行事への参加・交流、ブラジル社会での CSR 活動、会議所 HP のリニューアル、ブラジル日本商工会議所関連書籍出版業務（※1）

その他の活動歴

- 1969年～ 於 KURASHIKI ブラジル：従業員クラブ（『Grêmio』）会長、社宅の在日系コロニア子弟のための土曜 日本語学校塾の開設
- 1973年～ 於 ROHM I.E.L（ローム電子工業）：ブラジルに於いてはじめて Johnson&Johnson 社とローム電子工業が人材育成を目的とした日本の QC サークル活動を導入、双方の社内 QC サークル大会の開催を通じ相互啓発しながら啓蒙普及。
- 1974年、 Johnson&Johnson、GM、Embraer、CTA、Kodak、Alpargatas 社等の周辺地域企業と共に「国内市場のみならず輸出市場に於いてもブラジルはただ単に物を造れば良いと言うのでは無く、標準化を行い科学的な統計的手法を用いて高品質の製品を造り込み、国内外の熾烈な競争市場で消費者に高い信頼性と受け入れ可能なコストで供給する」を理念に掲げ、サンパウロ州サンジョゼ・ドス・カンポス市に民間団体としてはブラジルで初めて品質管理協会（AVCQ：Associação Valeparaibana de Controle de Qualidade）を設立、理事に就任。
- 1976年、同協会の副会長に就任。1976年に第1回日伯 QC セミナーを日本科学技術連盟（石川 馨団長：日本では当時「QCの父」として有名）と AVCQ が開催、サンパウロ州内の地域および他州にも品質管理活動の啓蒙普及。
- 1978年、日本の戦後経済復興に尽力したアメリカのデミング博士と伴に2大貢献者として知られる著名なアメリカ人、ジュラン博士を AVCQ 本部に招待し QC セミナーを開催。
- 1981年/1983年、一般財団法人日本科学技術連盟（略称：日科技連、Union of Japanese Scientists and Engineers（JUSE））の FQC チームがローム電子工業を訪問、交流会を開催。（日科技連は隔年交互に北米回りと欧州回りの FQC（Foreman Quality Control）チームを派遣、全世界的に日本の QC 活動の紹介と交流促進）
- 1982年、第1次ブラジル QC 代表団（全国から募集）の一員として日科技連主催（東京）の QC セミナーに参加。
- 1985年、アンニャンゲーラ地区 QC 協会（AACQ）と交流会を開催、ローム電子工業の QC サークル・チームを引率、TQC（トータル・クオリティ・コントロール）と XY 理

論の関連性およびブラジルにおけるQC活動導入実績例について講演。

1985年、日科技連とUBCCQ（União Brasileira de Controle de Qualidade:ブラジルQCサークル連盟）が開催した「企業繁栄を保証する品質戦略のTQCセミナー」にローム電子工業のQCサークル・チームが参加・発表。日本からは日科技連を代表し石川馨先生以下QCミッションが参加。

1988年、「ゼロ・デフェクト」へのチャレンジにあたってTPM（※2）の導入のため公益社団法人 日本プラント・メンテナンス協会からTPMの創始者である中嶋精一先生にローム電子工業の工場診断を仰ぐ。

（※2）TPMとは

社団法人日本プラントメンテナンス協会サイトから引用：TPM（Total Productive Maintenance「全員参加の生産保全」）とは、社団法人日本プラントメンテナンス協会によって1971年に提唱されました。TPMは、「生産システム効率化の極限追求（総合的効率化）をする企業体質づくりを目標にして生産システムのライフサイクル全体を対象とした“災害ゼロ・不良ゼロ・故障ゼロ”などあらゆるロスを未然防止する仕組みを現場現物で構築し、生産部門をはじめ、開発・営業・管理などのあらゆる部門にわたってトップから第一線従業員にいたるまで全員が参加し、重複小集団活動により、ロス・ゼロを達成すること」、と定義されています。

（※1） ～ ブラジル日本商工会議所関連書籍出版業務 ～

2005年、「現代ブラジル事典」に執筆寄稿およびブラジル側執筆者100人のコーディネート。

2008年、日外協の月刊グローバル経営情報誌5月号「現地報告—ブラジル経済最新情勢」に寄稿。

2009年、会員企業Emdoo社と会議所による「ブラジルと日本—移住及び査証」（日本語/ポル語/英語）の出版企画/監修コーディネート。

2010年、田中国重 与論町教育長著書「吉田松陰の現代化」に「ブラジル発、祖国日本・故郷与論への提言」と題して特別寄稿。

2010年、日本語版のブラジル日本商工会議所70周年記録集編纂作業/出版企画・校正・監修作業。（70周年記念委員会）

2011年、ポル語版のブラジル日本商工会議所70周年記録集翻訳編纂/出版企画・校正・監修作業。（事務局）

2012年、会員企業のPwC監査法人と会議所による会計用語集（日本語/ポル語/英語）の出版企画コーディネート。

2013年、日ポ両語ブラジル略語集（巻末付録：ポ日・日ポ会計用語集）の出版企画・校正・監修作業およびコーディネート。

2013年、会員企業のPwCと会議所によるビジネス用語集（日本語/ポル語/英語）の出版企画コーディネート。

2015年、2016年度版「現代ブラジル事典」の出版コーディネート。

<賞罰・その他>

2013年11月平成25年度在外公館長表彰受賞（サンパウロ）